

岐阜県歴史資料館における学校支援活動

田添 好男

1. はじめに

岐阜県歴史資料館は、今年度で開館30周年を迎えた。その間、主として古文書や行政文書等の歴史資料約40万点以上を収集し、その60%を目録化し閲覧に供している。しかしここ数年、入館者の増加に努力し、より多くの県民の利活用を促す必要があるとの声を受け、エントランスホールでの年数回の企画展示、テレビや新聞等のメディアやメール送信などによる広報活動に努めてきた。

その中の一つに学校支援活動がある。まだ緒についたばかりではあるが、県内の小中学校と連携し、本館職員の調査研究の成果や所蔵資料の授業での活用を目的として、様々な取り組みを行っており徐々に成果を上げつつある。ここにいくつか事例を紹介する。

2. 地元中学校の「総合的な学習の時間」における連携

当館を校区内にもつ岐阜市立伊奈波中学校では1年生の総合的な学習の時間を「ふるさと伊奈波」と称し、校区の特色ある事象に対して歴史的な観点から課題追究学習を行っている。学校側との綿密な打合せの上、この学習に対して当館として2つの支援活動を行っている。一つは、この学習の課題作りのオリエンテーションとして、当館職員が学校に出向き、学年生徒全員に校区の特色ある産業や歴史を物語る建造物や



出前授業の様子

遺構の概略について説明を行い、生徒に興味関心を抱かせる活動（出前授業）、いま一つは、「ふるさとウオーク」（オリエンテーションで説明した場所を班別に見学する校外学習）での現地説明である。今年度は、長良川の北と南の地域に分けて2日間行われた。なお、見学コースの中に当館での、「信長と岐阜」に関する資料説明や体験学習も含まれている。

こうした学習に対して、生徒から下記のような感想や礼状が当館に届けられた。

多くの生徒が、校区の様々な歴史に興味をもち追究意欲を高めてくれたことに、当館職員が行う出前授業の意義を実感した。

学校への出前授業は、職員の数や予算上の面でこの学校のみではあるが、地域素材の教材化という観点から、県内市町村の教師向けの出前講座（今年度は1回）については今後積極的に行っていきたいと考えている。



現地で説明する職員

【出前授業について（感想）】

私は今まで普通にこの地域で過ごしてきて、歴史に見向きもしなかったけど今回松岡先生（当館職員）の話を聞いて、この地域の歴史に興味が出てきました。（中略）岐阜というのは普段からあまりニュースなどにも出てこないし目立たないのかなと思っていたけど、斎藤道三・織田信長がつくったと聞いて、ここはすごいところなんだと分かりました。岐阜公園に信長の館の跡があるなんて知らなかったし、町々の名前にもちゃんとした由来があることが分かりました。私はこのまちのことを知っているようで知らなかったんだなと実感しました。（中略）ふだん何気なく渡っている橋や道路にもきちんとした歴史が存在しているし、毎日食べている食べ物にも歴史があるあるかもしれなし、そう考えるともっとこのまちのあらゆる歴史を調べたくなりました。（後略）

【ふるさとウオークについて（礼状）】

（前略）さて、先日私たちの地域を学ぶ学習において、松岡さんが丁寧な説明をしてくださり、尉殿堤 記念碑がなぜ造られたのか、そこにどのような願いが込められていたのか、を知ることができました。このような話はめったに聞くことができないので、とてもよい機会になりました。ほんとうにありがとうございました。

私たちはこれからも、この「地域を学ぶ学習」で今まで以上に地域のことについて詳しく学習し、自分のふるさとについてしっかり語ることができるように学んでいきたいと思っています。今後は個人課題を追究していく予定です。また、お世話になると思いますがどうぞよろしく御願いたします。（後略）

3. 『授業に使える当館所蔵史料撰』の全小中学校へのメール配信

当館では、遠方のためなかなか来館できない地域の先生方にも、当館所蔵の資料の存在を知っていただき積極的に授業に活用していただくために、本年度より『授業に使える当館所蔵史料撰』と題して、月1回程度県内全小中学校に配信している。配信

メールの内容は、資料の写真及びその解説や語句説明等である。本年度配信予定の資料は以下の通りである。

- ・『切支丹禁札』キリスト教徒を取り締まる方法は 踏み絵だけではない！
- ・『佐渡川舟橋絵図』永久橋をかけないのはなぜ？
- ・『小武弥三郎宛信長朱印状』信長による本領安堵状「天下布武」の朱印状のなぞ
- ・『飛驒国南方北方山絵図』飛驒の山々が江戸を支える！
- ・『憲法発布号外 明治22年2月』大日本帝国憲法の内容は？
- ・『木曾・長良・揖斐川三川改修計画書』ヨハネス・デレーケによる三川分流は岐阜の水害を激減させた！
- ・『らくだの図』江戸時代、らくだが美濃路を通った！
- ・『高須輪中絵図』江戸時代末、高須輪中中出现した堀田！
- ・『揖斐川・長良川・中州川（通り十ヶ）村絵図面』廃藩置県とは？ 加納県・大垣県・名古屋県といった今ではない県名が登場！
- ・『徳川家康書状』「秀吉による朝鮮出兵」さて、家康の心境は？
- ・『東海道五十三駅御行列双六』明治天皇が京都より江戸へ、双六で味わう時代の転換！

今年度については、当館より一方的に配信しているため、その取り扱いには学校毎でまだ温度差がある。

しかし、中には資料を活用した指導案を作成し、すで実践していただいた先生もおられる。次頁の指導案（抜粋）は、岐阜市内の小学校6年生の先生が、社会科で実践していただいたものである。この指導案の中に、第1回目に配信した『切支丹禁札』の資料を提示し、幕府の行ったキリスト教禁止令を、子どもたちにより具体的にまたより身近に感じさせようとする意図が見られる。

授業を終えた児童の一人は「資料の『定』を岐阜までも出して、キリスト教を取りしまったということは、よほど自分たち（幕府）を守りたかったんだなと思いました。」という感想を書いている。

こうした実践はまだ希であるが、来年度以降は史料撰とともにこうした実践例もメールで配信し、県内の先生方の実践交流の場としても活用していただけるよう工夫していく必要があると考えている。



実践授業風景

本時の目標

江戸幕府がキリスト教を厳しく取り締まったのは、キリスト教の勢力を押さえることで封建制度を維持し、幕藩体制を強固なものにするためであったことを理解することができる。

過程	学 習 活 動	指 導 と 援 助	資 料
つ か む / 追 究 す る / ま と め る	<p>1. 踏み絵の様子想像図から気付いたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何か足で踏んでいるようだ。それを武士が見ているよ。 キリストの絵を踏んでいるようだ。でもどうしてそんなことをするのか。 <p>2. 学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>どうして幕府は、キリスト教を厳しく取り締まったのだろうか。</p> </div> <p>3. 予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> きっと、江戸幕府の考え方とキリスト教の考え方が違うから、人々が幕府の言いなりにならなくなると考えて禁止をしたんじゃないかな。 <p>4. 予想に基づいて調べる。</p> <p>5. 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> キリスト教は、「神の前ではすべて平等」という教えだ。しかし、幕府は、身分制度を重視したから考え方が違う。だから、キリスト教を信じる人は、幕府に従わなくなると考えて、キリスト教の取り締まりを厳しくしたんだ。 九州の島原では、キリスト教信者を中心に3万人もの人が、重い年貢の取り立てに反対して幕府に対して一揆を起こした。だから、幕府は、このままでは、幕府が倒されると危機感をもったんじゃないかな。 <p>6. 切支丹禁令の資料を見て、気付いたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宣教師を見つけた人には、今のお金にして3500万円もの賞金が出ている。それくらい、幕府が本気だったということが分かるね。 キリスト教信者と知っていて、申し出なかったとしても罰があるなんて、すごく厳しいな。 私たちが住んでいる、岐阜にも幕府からの厳しいお触れが出ていたんだな。 <p>7. 学習のまとめを書く。</p>	<p>キリスト教の取り締まり図 キリスト教信者の増加グラフ キリスト教の教え 出島の絵 踏み絵 島原・天草一揆の図 鎖国までの取組年表 切支丹禁令 (岐阜県資料館所蔵資料)</p> <p>前時までの学習内容を掲示し、学んだこととかかわらせて考えられるようにする。</p> <p>自分が選択した追究の視点から、学習問題に迫っている姿を価値付ける。</p> <p>「切支丹禁令」(岐阜県資料館所蔵資料)の資料を提示し、当時の美濃(岐阜)にも、キリスト教の禁止のお触れが出たことを実感させる。</p> <p>考え方の変容のある子や自分の生活とのかかわりで考えられた子を価値付ける。</p>	

4. その他の取り組み

4.1 【遠足・社会見学等での歴史資料館来館の案内】

春・秋の遠足や社会見学で、金華山登山を計画する学校は少なくない。同時に山麓の岐阜公園内の様々な施設を見学したり活用する機会が多いが、公園に隣接する歴史資料館を訪れる学校はこれまでほとんどなかった。そこで、昨年より各学校へのメールや先生方の



展示の説明を聞く小学生

研究会の場などで歴史資料館の利活用を訴えてきたところ、いくつかの学校で来館の計画が組み込まれるようになった。限られた展示スペースや時間の中で、職員が校区の資料を交えて丁寧に説明することによって、子ども達に少しでも地域の歴史に関心をもってもらえるよう工夫している。

4.2 【歴史サークル及び夏期信長歴史教室の開講】

当館では毎年、県内の小中学生を対象として、古文書を通して歴史のおもしろさを味わってもらおうと歴史サークルと夏期信長歴史教室を開講している。各学校を通してそれぞれ10名程度募集している。歴史サークルは6月～11月にかけての9講座に連続して出席できることを前提とし、夏期信長歴史教室については夏休み中に実施する3講座（各2回ずつ）のうち興味のあるどの講座に参加してもよいこととなっている。



自分の花押作りに挑戦する受講生

歴史好きの子ども達だけあって、どの子どもも熱心に取り組んでいた。

また、「夏休みの宝物づくりお助けコール」と称して、子ども達の夏休みの歴史研究の相談にも応じている。

5. おわりに

当館が小中学生で埋まり、熱心に説明を聞いたり展示をのぞき込む姿に一種の感慨を覚える。公文書館である当館の性質上、所蔵資料や展示内容が児童生徒の興味を引くようなものではなく、かつては来館する子ども達はまばらであった。しかし、積極的な情報発信や当館なりの工夫により、当館所蔵の資料が学校教育の場で役立っていただけようになり、当館を訪れる子ども達も徐々に増加しつつある。今後も学校や先生方の理解と協力を得る努力を重ねながら、学校教育における当館及び当館所蔵史料の利活用を更に促進していきたいと考える。